

権力が絡んだ国際スキャンダル

本コラムでも少しだけ触れた国際スキャンダルの全容が明らかになりつつある。モスクワのハンガリー商務代表部不動産の売却をめぐる一大スキャンダルである。ロシア側から見れば、たかが数十億円程度の詐取の話だから、大スキャンダルとは言えないかも知れない。しかし、1990年代のどさくさの時代ならともかく、体制転換から20年近い歳月が流れた現在でもこの種のスキャンダルが起きるのはどういうことだろう。ハンガリー社会党政権の闇の深さを教えている。

問題の発端

2008年暮れに売却が完了したモスクワのハンガリー商務代表部不動産は、モスクワ官庁街の一等地にある17,000平方メートルの敷地をもつ物件である。2009年の国会でこの売却不正問題が国会で取り上げられた時には、複数存在する契約書の中の差額200万ドルの行方が分からないという問題だった。2,330万ドルという契約書には200万ドルの手付金が明記されているが、後に作成された契約書には2,130万ドルの価額が記載されているだけで、手付金は明記されていないという。2,130万は確かに支払われたが、二つの契約書の差額である200万ドルがハンガリー政府の口座には入金されていない。そこでこの差額がどこへ行ったのか、誰がこの取引に関与したのかが国会の外交委員会で究明されたが、結局のところ、外務省も大蔵省も、さらに国家資産管理会社もその差額に関知していないということだった。

契約書が何度も書きかえられ複数の契約書が存在すること、初期の価額と最終的な売却額との差額の200万ドルの行方が分からないこと、さらに売却先がルクセンブルグに登録されたオフショア企業で、その本当の所有者が誰か分からないこと等々、この不動産取引は最初から疑惑だらけだった。

政府所有の外国に所在する公館で、かなり高額な物件の売却だから、両国の政府首脳の許可なしには済まない取引である。一等地に存在する外国公館物件の売買にはロシア政府の承認が必要である。しかも、不動産の売買や不動産転がしこそ、体制転換後に権力に就いた政治家や権力者の私腹を肥やす重要な手段だから、事務官僚だけで事を進めたなど考えられない。1億2億の金はロシアでは端金でも、ハンガリーの政治家にとっても御の字だ。しかも、うまいスキームを作れば、10億20億の儲け話になる。こういう美味しい取引を事務方に任せることなどあり得ない。

しかし、国会の委員会でまったく問題究明が進まなかった。FIDESZが政権をとった暁に解明を約束する事件として、この不動産売却問題が解明リストに上がっていたが、ようやく検察の捜査が進展し始めた。シュクローのカジノ建設にかかわる不動産の不正な土地交換疑惑でも逮捕された国家資産管理会社前社長タートライ・ミクローシュ、売却時のロ

シア大使セーケイ・アールパード、当時の外務事務次官フェクシ・マーリアに逮捕状が出て、検察は尋問を開始したが、裁判所はこの件での拘留を認めなかった。

取り調べは現在も続けられているが、社会党政権の当時の外務大臣グンツ・キングも証人として取り調べを受けた。

ロシア側からの情報流出

検察が動き出した背景には、今年に入ってモスクワの週刊誌や日刊紙がこの不動産売却に隠された事実を暴露したことがある。商務代表部の建物は現在、ロシア政府の所有になっている。ロシア週刊誌が暴露したところによれば、ハンガリー政府が売買契約を結んだオフショア企業 **Diamond Airs** 社の所有者の一人が、ロシアのオルガルヒアでメドヴェージェフ大統領に近いヴィクトル・ヴェクセルベルグだという。彼がハンガリー政府から買い取った不動産に7倍の値を付けてロシア政府に転売したのである。転売から得た利益が関係者の間で配分されていると考えるのがふつうである。しかも、ロシアの政治家だけでなく、この不動産売買取引に尽力したハンガリーの政治家やロシア事情に詳しい高級官僚がそれなりの報酬を得たと考えるのが自然である。さらに問題は、ハンガリー側の売却決定を行ったジュルチャーニイ首相とヴェレシュ大蔵大臣がどこまでこの利益配分にかかわっていたかである。

この商務代表部建物の売却を考える場合、ロシアの不動産売却の仕組みを知る必要がある。ハンガリー商務代表部の建物は分不相応なほど大きな建物として、体制転換以後、ロシア政府の狙い目になっていた。この売却の話は、**2005**年頃にロシア政府側から持ち出されたようだ。そうでない限り、いくら自己所有の不動産とはいえ、ロシア国内不動産を売却するのは容易ではない。なぜなら、ロシアでは土地は国有なので、不動産の所有権は建物のみに関係する。しかもこのような目立つ不動産をロシア政府が関知しないところで売却した場合、売却収入にたいして非常に重い税金が課せられる。したがって、ロシア政府の事前の了解か、政府側からの提案がない限り、簡単に売れないのだ。だからこそ、この取引にロシア人脈に通じる担当者が入り込む余地がある。しかも、ロシア事情に通じている連中はそのほとんどが、旧体制時代に諜報部員として旧ソ連圏へ派遣されたことのある人物なのだ。

逮捕状が出たジュルチャーニイ政府時の外務事務次官フェクシ・マールタは**2005**年のロシア側の提案から最終的な売却に至るまで、すべての事情を知っていた人物だと言われている。最近暴露された旧秘密警察リスト (<http://www.szigoruantitkos.hu>) で、フェクシは内務省の極秘諜報部員として登録され、国際スパイ排除機関に属しているコードネーム **D-249/K-583** の女性だと言われている。本人は否定していないから、事実なのだろう。セーケイ元大使の経歴は知らないが、ロシア関係に詳しい人物のようだ。セーケイはハンガリー政府を代表して、モスクワでの一切の交渉を任されていた。セーケイは大使を退官後、ハンガリー最大の不動産会社 **TriGranit** のロシア事務所の責任者に転任した。**TriGranit** は

言うまでも、デムヤン・シャンドールが率いるハンガリーの財閥企業である。社会党首脳とも FIDESZ 首脳との良好な関係を維持しながらビジネスを展開している政商的な企業である。商務代表部不動産の取引に、何らかの形で TriGranit が囓んでいたとしても不思議はない。

不動産転売は常套手段

地方自治体のレベルから政府のレベルまで、不動産の転売スキームは私腹を肥やす打ち出の小槌だ。体制転換後、市や区が所有する住宅や建物を知人や転売仲間に格安で払下げ、その物件がさらに転がされることから雪だるま式に価額が上がり、そのキックバックが政治家の利得になった。この種のスキャンダルで、逮捕されて現在も拘置されている社会党や SZDSZ の政治家は十指に余る。

昨年暮れによりやく仮釈放になった国家資産管理会社元 CEO タートライの直接の容疑は、シュクローに予定されていたカジノ建設にあたって、イスラエルの会社が所有していた安い土地とシュクローに国が所有していた高価な土地区画 70ha 分を交換し、国家に損害を与えた疑いである。これも不動産の転売の一つの形である。交換差額が関係者に配分された（される予定になっていた）ことは言うまでもない。

昨年 12 月の公判でタートライがこの土地交換のプロセスを証言している。それによれば、当該の土地交換は当時の首相ジュルチャーニィから国会の一室でその可能性を問われたという。その時は、「法律に違反するものではない」と答えたと言っている。タートライは国家資産の保有や資産価値の保護に責任をもつ最高責任者として責任を問われたのだが、まだ 30 歳半ばの彼にすべての罪を着せるのは気の毒なところがある。彼をこの地位に抜擢したのはヴェレシュ大蔵大臣であり、子飼いのタートライを据えておけば思い通りになると考えたのだろう。国家資産の売買には最終的に国家資産管理会社社長の署名が必要なのだから。その意味で、タートライはヴェレシュやジュルチャーニィの犠牲者かもしれない。

モスクワの商務代表部不動産の売買でも、タートライは国家資産の保全を怠った容疑で取り調べを受けている。これはいわば形式犯である。その背後にはロシア首脳とこの物件の売買で了解をとりあった政治家がいるはずである。しかも、それは閣僚のトップクラスと考えるのが自然である。ヴェレシュやジュルチャーニィに疑いの目が向けられているのは当然だと言えよう。彼らは二人とも、国家資産の売買で私財を蓄えてきた政治家である。ヴェレシュに至っては、1990 年代に屑収集業で付加価値税の不正還付で告訴された履歴の持ち主である。モスクワ代表部不動産のような巨額資産の売買には閣議決定が必要だから、この二人が囓んでいないはずがない。とくにジュルチャーニィとロシア首脳の関係は悪くなかったのだから。逆に、ジュルチャーニィが新しいガスパイプラインをめぐって親ロシア路線を敷いてきた背景には、この案件がからんでいたのかもしれない。

どこまで解明されるか

ハンガリー商務代表部不動産売買の結果をロシア側から見ると政府の公金が横領された事件であり、ハンガリー側からみると国家資産の不当な安値の売却で国家に損害を与えた事件である。ロシア側が不動産の購入に充てた公金の大きな部分が、政治家を含めた関係者、それも国際的な広がりをもった関係者に流れたのだから、公金横領としても立件可能だろう。ロシアがふつうの国家であれば、検察当局も捜査に乗り出すべきものであるが、そうならないところが現在のロシア。政治家のトップが絡んでいる横領は事件にならない。

他方、ハンガリーはどうか。政権が変わって、**FIDESZ** 政府は旧社会党のスキャンダルを暴くことに必死になっている。**FIDESZ** が狙っているのは、ジュルチャーニイの関与の証明である。しかし、お金の出入りが実際につかまれない限り、立証は難しい。こういう捜査から逃れるために、旧中・東欧諸国や旧ソ連諸国のエリートたちは国外に資産を移し、所有者を隠したオフショア企業を使っている。当然、分け前は国外の口座に振り込まれただろう。だから、立件は難しい。シュクローの不動産交換事件と並んで、モスクワ商務代表部不動産売却事件は、しばらくハンガリー政界を賑わしそうだ。

(関連する分析は、<http://morita.tateyama.hu> を参照されたい)